

集中授業による「生きる力」の変化について？ 2018、2019、2022年度集中ゴルフIKR 調査報告

著者	桂 豊, 曾我部 晋哉
雑誌名	スポーツ・健康科学教育研究センター - 紀要
巻	24
ページ	43-57
発行年	2023-03
URL	http://doi.org/10.14990/00004516

集中授業による「生きる力」の変化についてVI

— 2018、2019、2022 年度集中ゴルフ IKR 調査報告—

桂 豊*
曾我部 晋 哉*

The development of IKIRU CHIKARA through intensive courses – Research report of intensive golf courses in summer of FY2018, 2019 and 2022 –

Yutaka Katsura, Akitoshi Sogabe,

キーワード：集中ゴルフ, IKR 調査, 生きる力

【はじめに】

本学において集中授業として開講しているスキーとゴルフについて IKR 調査を実施し、その結果をこれまで報告した（桂ら, 2012）（桂ら, 2014）（桂ら, 2016）（桂ら, 2018）（桂ら, 2020）。今回は 2018、2019 年度、3 年振りに開講した 2022 年度の集中ゴルフについて 2 泊 3 日の野外でのゴルフの体験が受講生達に与える影響を調査することを目的とした。

【方法】

1. 日程・場所・学生数・講師数・調査実施日

表 1 及び表 2 は 2018 年度、表 3 及び表 4 は 2019 年度、表 5 及び表 6 は 2022 年度の集中ゴルフ概要と授業の日程である。

2018 年度、2019 年度については 6 日間の集中授業の初日の開講前と合宿終了後に IKR 調査を実施、

表 1 2018 集中ゴルフ概要

2018 集中ゴルフ	
日程	2018 年 8 月 27 日～31 日（六アイ G 他） 9 月 2 日～9 月 4 日（2 泊 3 日）
場所	六アイ G、ポートアイランドゴルフクラブ（以下 PIGC）、有馬カンツリー倶楽部（以下有馬 CC）
宿泊先	関電テクノセンター研修所
学生数&講師数	学生数 23 名（男 11 名 女 12 名） 講師数 3 名（本部・個別対応含む） 有馬 CC インストラクター 3 名
IKR 調査実施日	Pre. : 初日開講前 Pos. : 最終日閉講式終了後

* 甲南大学 全学共通教育センター／スポーツ・健康科学教育研究センター兼任研究員

表 2-1 2018 年度集中ゴルフ日程①

2018年8月27日(月) <事前授業>			
時間	内容	場所	
13:00	事前授業	812教室	出欠確認。更衣不要。筆記用具。
	IKR調査		IKR調査実施。
	スタッフ紹介		テキスト配布(大学授業研究会編、有馬CC作成、集中授業概要)。
	概要説明		教員紹介 事務方
			集中授業概要を基に概要の説明
			実技内容、場所、合宿、交通手段、服装等
			合宿
			交通手段
	講義内容説明		昨年度授業内容(映像)
	質疑・応答		
15:00	解散		
2018年8月28日(火) <2日目 実技>			
9:00	集合	六アイ・講義室	更衣を済ませて集合。出欠確認。
			黒木インストラクター他紹介
	スナッグゴルフ	アメリカンG	レクチャー後アメリカンGにてスナッグゴルフ
	ステーションレッスン	アメリカンG	打放し、バンカー練習、パター練習、パードゴルフ
		ゴルフ部練習場	
12:00	終了		
2018年8月29日(水) <3日目 実技>			
9:00	集合	ゴルフ部練習場	更衣を済ませて集合。出欠確認。
	ウォーミングアップ		ゴルフ用アップの方法(肩甲骨周囲、股関節周囲等)
	ステーションレッスン	アメリカンG	打放し、バンカー練習、パター練習、パードゴルフ
		ゴルフ部練習場	
12:00	終了		
2018年8月31日(金) <4日目 実技>			
12:45	集合	PIGC	更衣を済ませて荷物を持って2F打席集合。出欠確認。
13:00			
	ウォーミングアップ		ゴルフ用アップ(肩甲骨周囲、股関節周囲等)
	打球練習		ショートアイアン(アプローチ競争)
			ミドルアイアン
			ウッドにチャレンジ
			iPadによるスイング診断実施
15:00	終了		合宿についてのアナウンス

表 2-2 2018 年度集中ゴルフ日程②

2018年9月3日(月) <5日目(合宿1日目)>			
時間	内容	場所	特記事項
13:00	集合	有馬CC	各自チェックイン
13:30~	開講式	会議室	有馬CC谷社長、黒木インストラクター他スタッフ紹介
	実技	ドライビングレンジ	
	ステーションレッスン	各練習場	アプローチ練習場、バンカー練習場、パター練習場
	ラウンドレッスンへ	有馬CC	7グループ(ラウンド経験者男子2名、それ以外を6グループ) ※翌日9/4に台風の上陸の可能性が高くなったこともあり、谷社長と相談し、今日ラウンドレッスンまでやってしまうことに決定。 ラウンドレッスン。皆で打ってベストボールを選択。
~17:45	実技終了		数ホールラウンド。
	テクノセンターへ移動	有馬CC	自家用車、有馬CC送迎車、教員自家用車等
	夕食・入浴	食堂・大浴場等	夕食:18:00~20:00 (テクノセンター食堂)
	講義	2F204講義室	テーマ①
22:30	点呼	各部屋	
22:45	消灯		
2018年9月4日(火) <6日目(合宿2日目)>			
6:30	起床	テクノセンター	
	朝食	食堂	7:00~8:00
9:30			※台風が直撃した為、有馬CCは完全休業日となり、講義室内にスナッグゴルフのコースをセッティングし、皆でグループ分けをしラウンドした
	昼食	食堂	お弁当注文済み
	講義	2F204講義室	テーマ② 講義後、iPadで各自時間差でスイングを撮影。その後airdropで各自の映像とプロの映像を配信。比較した。
18:00	夕食・入浴	食堂・大浴場等	夕食:18:00~20:00 (テクノセンター食堂)
20:00	講義	2F204講義室	無し
22:00	点呼	各部屋	
22:15	消灯		
2018年9月5日(水) <7日目(合宿3日目)>			
6:00	起床	テクノセンター	荷物片付け、部屋の整理 チェックアウト準備
	朝食	食堂	7:00~8:00
8:00	出発	テクノセンター玄関	自家用車、教員自家用車等
	有馬CCチェックイン	有馬CCフロント	更衣をして講義室集合(ラウンド準備)
8:30	ラウンド体験	有馬CC	ラウンド体験(ショットガン方式等)
	昼食	有馬CCレストラン	限定メニューを用意(有馬CCレストラン)
	ラウンドレッスン	有馬CC	ラウンド体験
~16:00	実技終了		入浴・更衣
	閉講式	有馬CC会議室	有馬CC高田氏、黒木インストラクター、講師代表 ※有馬CCアンケート実施 ※IKR調査実施
	解散		各自

表 3 2019 年度集中ゴルフ概要

2019 集中ゴルフ	
日程	2019 年 8 月 26 日、28 日、30 日 9 月 2 日～9 月 4 日（2 泊 3 日）
場所	六アイ G、PIGC、有馬 CC
宿泊先	関電テクノセンター研修所
学生数&講師数	学生数 22 名（男 11 名 女 11 名） 講師数 3 名（本部・個別対応含む） 現地インストラクター 3 名
IKR 調査実施日	Pre. : 初日開講前 Pos. : 最終日閉講式終了後

表 4-1 2019 年度集中ゴルフ日程①

2019 年 8 月 26 日（月）＜事前授業+実技＞			
時間	内容	場所	特記事項
13:00～	事前授業	六アイ 北側体育館講義室	出欠確認。更衣必要。筆記用具。
	IKR調査		IKR調査実施。 テキスト等配布（有馬CC作成、集中授業概要、施設案内）。
	スタッフ紹介		教員紹介 事務方
	概要説明		集中授業概要を基に概要の説明 実技内容、場所、合宿、交通手段、服装等
	講義内容説明		昨年度授業内容（映像） グリップ・スイングの基本、パターについて、バンカーショット映像。
14:00～	実技		
	ステーションレッスン	アメリカンG	打放し、バンカー練習、パター練習、バードゴルフ
16:00	終了		
2019 年 8 月 28 日（水）＜2 日目 実技＞			
9:00	集合	ゴルフ部練習場	更衣を済ませて集合。出欠確認。
	ウォーミングアップ		ゴルフ用アップの方法（肩甲骨周囲、股関節周囲等）
	ステーションレッスン	アメリカンG	打放し、バンカー練習、パター練習、バードゴルフ
	模擬ラウンドレッスン		コースを作りラウンドしてみる（バードゴルフ）
12:00	終了		
2019 年 8 月 30 日（金）＜3 日目＞			
12:45	集合	PIGC	更衣を済ませて荷物を持って 2F 打席集合。出欠確認。
13:00	ウォーミングアップ		ゴルフ用アップ（肩甲骨周囲、股関節周囲等）
	打球練習		ショートアイアン（アプローチ競争） ミドルアイアン ウッドにチャレンジ iPadによるスイング診断実施
15:00	終了		
	次回アナウンス		9/2～9/4合宿について 集合時間、交通手段等確認

表 4-2 2019 年度集中ゴルフ日程②

2019年9月2日(月) <4日目(合宿1日目)>			
時間	内容	場所	特記事項
13:00	集合	有馬CC	各自チェックイン
13:30~	開講式	会議室	有馬CC谷社長、黒木インストラクター他スタッフ紹介
	レクチャー	会議室	谷社長、黒木氏他(基本的なルール・マナーについて)
	実技	ドライビングレンジ	
	ステーションレッスン	各練習場	アプローチ練習場、バンカー練習場、パター練習場
~16:45	実技終了		
	テクノセンターへ移動	有馬CC	学生自家用車、有馬CC送迎車、教員自家用車等
	チェックイン	テクノセンター	フロントにて代表者がチェックイン手続き
	夕食・入浴	食堂・大浴場等	夕食:18:00~20:00 (テクノセンター食堂)
19:30	講義	2F204講義室	テーマ①
22:30	点呼	各部屋	
22:45	消灯		
2019年9月3日(火) <5日目(合宿2日目)>			
6:30	起床	テクノセンター	
	朝食	食堂	7:00~8:00
9:30	出発	テクノセンター玄関前	学生自家用車、有馬CC送迎車、教員自家用車等
	有馬CCチェックイン	有馬CCフロント	更衣をして講義室集合(ラウンド準備)
10:00	ラウンドレッスン	有馬CC	ステーションレッスン
	昼食	有馬CC会議室	お弁当
	ラウンドレッスン	有馬CC	ステーションレッスン コースラウンド(ショットガン方式)
~17:00	実技終了		
	テクノセンターへ移動	有馬CC	学生自家用車、有馬CC送迎車、教員自家用車等
	夕食・入浴	食堂・大浴場等	夕食:18:00~20:00 (テクノセンター食堂)
19:30	講義	2F204講義室	テーマ②
22:00	点呼	各部屋	
22:15	消灯		
2019年9月4日(水) <6日目(合宿3日目)>			
6:00	起床	テクノセンター	荷物片付け、部屋の整理 チェックアウト準備
	朝食	食堂	7:00~8:00 チェックアウト
8:00	出発	テクノセンター玄関前	学生自家用車、有馬CC送迎車、教員自家用車等
	有馬CCチェックイン	有馬CCフロント	更衣をして講義室集合(ラウンド準備) グループ発表
8:30	ラウンド体験	有馬CC	ラウンド体験(ショットガン方式等)
	昼食	有馬CCレストラン	限定メニューを用意(有馬CCレストラン)?
	ラウンドレッスン	有馬CC	ラウンド体験
~16:00	実技終了		
	入浴・更衣		
	閉講式	有馬CC会議室	有馬CC谷社長、黒木インストラクター、講師代表 ※有馬CCアンケート実施 ※IKR調査実施
	解散		各自

表 5 2022 年度集中ゴルフ概要

2022 集中ゴルフ	
日程	2022 年 8 月 31 日～9 月 2 日（2 泊 3 日）
場所	有馬カンツリー倶楽部
宿泊先	関電テクノセンター研修所
学生数&講師数	学生数 15 名（男 12 名 女 3 名）
	講師数 3 名（本部・個別対応含む） 現地インストラクター 3 名
IKR 調査実施日	Pre. : 開講式前 Pos. : 閉講式終了後

表 6 2022 年度集中ゴルフ日程

時間	8/31内容	場所	時間	9/1内容	場所	時間	9/2内容	場所
			6:30	起床	テクノセンター	6:00	起床	テクノセンター
				朝食（各自）	食堂		朝食（各自）	食堂
						8:00	出発	テクノセンター玄関前
			9:30	出発	テクノセンター玄関前		有馬CCチェックイン	有馬CCフロント
				有馬CCチェックイン	有馬CCフロント			
			10:00	ラウンドレッスン	有馬CC		W-UP	トライビングレンジ アプローチ・パター
							ラウンド体験	有馬CC
				昼食	有馬CC会議室		昼食	有馬CCレストラン
12:30	送迎車利用学生集合	JR三田駅						
13:00	現地集合学生 全体集合	有馬CCフロント 有馬CCフロント		ラウンドレッスン	有馬CC		ラウンドレッスン	有馬CC
13:30～	IKR実施後開講式 レクチャー	会議室 会議室					実技終了	
	実技	ドライビングレンジ						
	ステーションレッスン	アプローチ練習場 バンカー練習場 パター練習場					入浴・更衣	
～16:45	実技終了			実技終了		～16:00	閉講式（終了後IKR）	有馬CC会議室
			～17:00					
	テクノセンターへ移動 チェックイン	有馬CCフロント前 テクノセンター		テクノセンターへ移動	有馬CCフロント前		解散	有馬CC送迎車他
	夕食・入浴 講義（課題）	食堂・大浴場等 各部屋		夕食・入浴 講義（課題）	食堂・大浴場等 各部屋			
20:00			20:00					
	門限			門限				
21:30			21:30					
	点呼	各部屋		点呼	各部屋			
22:30			22:00					
	消灯			消灯				
22:45			22:15					

2022年度については合宿初日開講式までにIKR事前調査を実施、最終日閉講式後にIKR事後調査を実施した。

2. 生きる力の定義と学力の重要な3要素

本調査では、これまでの報告同様、平成20年3月に改定された「学習指導要領」において「生きる力」の理念は変わらず継承されることが明確にされたことを受け、「生きる力」とは、「①確かな学力（基礎的な知識・技能を習得し、それらを活用して、自ら考え、判断し、表現することにより、様々な問題に積極的に対応し、解決する力）であり、②豊かな人間性（自ら

を律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性と③健康・体力（たくましく生きるための健康や体力）とした。そして学習指導要領では学力の重要な3要素として1基礎的・基本的な知識及び技能の習得、2知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等、3学習意欲であるとしている。

図1は「生きる力」、図2は学力の重要な3要素、図3は「生きる力」IKR調査回答用紙、図4はIKR調査の上位尺度、中位尺度、下位尺度である。

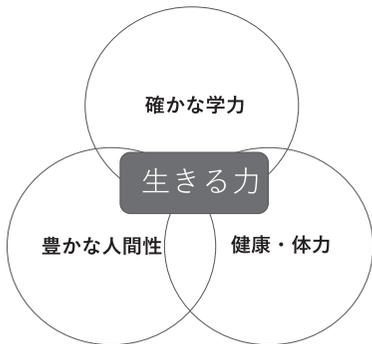


図1 生きる力の定義



図2 学力の重要な3要素

氏名		班		男		女	
・下のそれぞれの質問について、「とてもよくあてはまる」～「全くあてはまらない」の6段階で答えて下さい。 ・自分をもっともあてはまると思う番号に、○印を付けてください。 ・考えすぎると答えられなくなる場合があります。考えすぎず、どんな答えも下さい。							
		とてもよくあてはまる		⇔	全くあてはまらない		
1	嫌なことは嫌とはっきり言える	1	2	3	4	5	6
2	人のために何かをしてあげるのが好きだ	1	2	3	4	5	6
3	自分で問題点や課題を見つけることができる	1	2	3	4	5	6
4	誰にでも話しかけることができる	1	2	3	4	5	6
5	グループをうまくまとめることができる	1	2	3	4	5	6
6	人の話をきちんと聞くことができる	1	2	3	4	5	6
7	「ありがとう」、「ごめんなさい」がうまく言えない	1	2	3	4	5	6
8	前向きに物事を考えられる	1	2	3	4	5	6
9	正しいこと、してはいけないことの判断ができる	1	2	3	4	5	6
10	人の悪口をよく言う	1	2	3	4	5	6
11	洗濯機がなくても、手で洗濯できる	1	2	3	4	5	6
12	小さな失敗を恐れれない	1	2	3	4	5	6
13	相手の立場になって考えることができる	1	2	3	4	5	6
14	わからないことは自分で調べる	1	2	3	4	5	6
15	小さなことでよくよする	1	2	3	4	5	6
16	草花の世話はある日好きではない	1	2	3	4	5	6
17	その場にあそびたい行動ができる	1	2	3	4	5	6
18	生きていて良かったと思っている	1	2	3	4	5	6
19	自分の力で、問題を解決しようとする	1	2	3	4	5	6
20	嫌がらずによく働く	1	2	3	4	5	6
21	体を動かしても、疲れにくい	1	2	3	4	5	6
22	自分勝手なわがままを言わない	1	2	3	4	5	6
23	新しい物事に、すぐに慣れることができない	1	2	3	4	5	6
24	自分と違う意見や考えを、受け入れることができる	1	2	3	4	5	6
25	先を見通して、自分で計画が立てられる	1	2	3	4	5	6
26	いつも笑顔で過ごしている	1	2	3	4	5	6
27	暗い林の中の道を、ひとりりで歩くことができる	1	2	3	4	5	6
28	病気にかかりやすい	1	2	3	4	5	6
29	誰にでも、挨拶ができる	1	2	3	4	5	6
30	未来への夢と希望をもっていない	1	2	3	4	5	6
31	決まり、ルールを守ることができる	1	2	3	4	5	6
32	とても大きな声を出すことができる	1	2	3	4	5	6
33	身の回りの片付けや掃除ができる	1	2	3	4	5	6
34	少しくらい血が出ても平気である	1	2	3	4	5	6
35	他の人の失敗を許すことができない	1	2	3	4	5	6
36	様々な情報から必要なものを選べる	1	2	3	4	5	6
37	失敗しても、立ち直るのがはやい	1	2	3	4	5	6
38	仲間とうまく付き合えない	1	2	3	4	5	6
39	自分でできることは自分でやる	1	2	3	4	5	6
40	暑さや寒さに、負けない	1	2	3	4	5	6

図3-1 IKR調査回答用紙表

	とてもよくあてはまる			⇔	全くあてはまらない		
41 ナイフなどの刃物を、上手に使える	1	2	3	4	5	6	
42 他人にあまり親切でない	1	2	3	4	5	6	
43 長い距離を歩くことができる	1	2	3	4	5	6	
44 お金や物の無駄使いをしない	1	2	3	4	5	6	
45 自由な発想ができる	1	2	3	4	5	6	
46 季節の変化を感じるができる	1	2	3	4	5	6	
47 自分のいいところ、悪いところをよく知らない	1	2	3	4	5	6	
48 色々な動物や虫を、手で触ることができない	1	2	3	4	5	6	
49 誰でも仲良くできる	1	2	3	4	5	6	
50 根気がない	1	2	3	4	5	6	
51 自分のことが大好きである	1	2	3	4	5	6	
52 自分からすすんで何でもやる	1	2	3	4	5	6	
53 自分に割り当てられた仕事は、しっかりとやる	1	2	3	4	5	6	
54 食べ物の好き嫌いが多い	1	2	3	4	5	6	
55 腹が立っても、おさえることができる	1	2	3	4	5	6	
56 花や風景などの美しいものに、感動できる	1	2	3	4	5	6	
57 いろいろなことに興味がある	1	2	3	4	5	6	
58 やりたいことが、たくさんある	1	2	3	4	5	6	
59 多くの人に好かれている	1	2	3	4	5	6	
60 今の自分は、幸せだと思う	1	2	3	4	5	6	
61 読み書きがしっかりできる	1	2	3	4	5	6	
62 様々なことを実際に体験している	1	2	3	4	5	6	
63 生き物を、とても大切にしている	1	2	3	4	5	6	
64 人の心の痛みがわかる	1	2	3	4	5	6	
65 大人や年上の人と、うまく付き合える	1	2	3	4	5	6	
66 自然の中の出来事に興味がある	1	2	3	4	5	6	
67 とても痛い怪我をしても我慢できる	1	2	3	4	5	6	
68 自分で食事が作れる	1	2	3	4	5	6	
69 部屋の中でなく、外で遊ぶのが好きである	1	2	3	4	5	6	
70 早寝早起きである	1	2	3	4	5	6	

ご協力有難うございました。

図 3-2 IKR 調査回答用紙裏



図 4 「生きる力」の上位尺度、中位尺度、下位尺度

3. 調査項目について

表7は各尺度の調査項目を示したものである。

表7 上位尺度、中位尺度、下位尺度の調査項目

上位尺度	中位尺度	下位尺度	調査項目	
「生きる力」	心理的社会的能力	1 非依存	11いやなことはいやとはっきり言える	
			15小さな失敗を恐れない	
			29新しいものごとにすぐに慣れることができない	
			43さまざまなことを実際に体験している	
			57自由な発想ができる	
			2 積極性	11前向きに物事を考えられる
				25自分の力で問題を解決しようとする
	39未来への夢と希望はあまり持っていない			
	53いろいろなことに興味がある			
	67自分から進んで何でもやる			
	3 明朗性	5誰にでも話しかけることができる		
		19小さなことでよくよする		
		33いつも笑顔で過ごしている		
		47失敗しても立ち直るのが早い		
		61やりたいことがたくさんある		
		4 交友・協調	7グループをうまくまとめることができる	
			21おとなや年上の人とうまくつきあえる	
	35多くの人に好かれている			
	49仲間とうまくつきあえない			
	63誰とも仲良くできる			
	5 現実肯定		9「ありがたい」「ごめんない」がうまく言えない	
			23生きてよかったと思っている	
		37誰にでも挨拶ができる		
		51今の自分は幸せだと思う		
		65自分のことが大好きである		
		6 視野・判断	3自分で問題点や課題を見つけることができる	
			17わからないことは自分で調べる	
31先を見通して自分で計画が立てられる				
45様々な情報から必要なものが選べる				
59自分のいいところ、わるいところをよく知らない				
7 適応行動	8人の話をきちんと聞くことができる			
	22その場にあふさわしい行動ができる			
	36読み書きがしっかりできる			
	50自分でできることは自分でやる			
	64根気がない			
	徳育的能力	8 自己規制	14人の悪口をよくいう	
			28自分勝手な、わがままを言わない	
42身の回りの片付けやそうじができる				
56お金やものの無駄遣いをしない				
70腹が立つてもおさえることができる				
9 自然への関心			6花や風景などの美しいものに、感動できる	
			20生き物をとても大切にずる	
		34草花の世話はあまり好きでない		
		48季節の変化を感じる事ができる		
		62自然の中のできごとに興味がある		
		10 真面目勤勉	12正しいこと、してはいけないことの判断ができる	
			26嫌がらずによく働く	
40きまりやルールを守る事ができる				
54他人にはあまり親切でない				
68自分に割り当てられた仕事は、しっかりとやる				
11 思いやり	2人のために何かをしてあげるのが好きだ			
	16相手の立場になって考えることができる			
	30自分と違う意見や考えを受け入れることができる			
	44他人の失敗を許すことができない			
	58人の心の痛みがわかる			
	身体的能力	13部屋の中でなく、外で遊ぶのが好きである		
		27からだを動かしても、疲れない		
41とても大きな声を出すことができる				
55早寝早起きである				
69食べ物の好き嫌いが多い				
13 身体的耐性		4病気にかりやすい		
		18少しくらい血がでてでも平気である		
	32暑さや寒さに負けない			
	46長い距離を歩くことができる			
	60とても痛い怪我をしても我慢できる			
	14 野外生活・技能	10自分で食事を作れる		
		24いろいろな動物や虫を、手で触ることができない		
38ナイフ・包丁などの刃物を上手に使える				
52暗い林の中の道を、ひとりですくことができる				
66洗濯機がなくても、手で洗濯できる				

(1) 上位尺度について

上位尺度は、以下で構成される「生きる力」とした。

- ① 確かな学力（基礎的な知識・技能を習得し、それらを活用して、自ら考え、判断し、表現することにより、様々な問題に積極的に対応し、解

決する力)

- ② 豊かな人間性（自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性

- ③ 健康・体力（たくましく生きるための健康や体力)

(2) 中位尺度について

中位尺度は、「心理的社会的能力」「徳育的能力」「身体的能力」とした。

(3) 下位尺度について（下線は反転項目）

下位尺度は、以下の14項目とした。

1) 非依存

嫌なことは、はっきり嫌と言える

小さな失敗を恐れない

新しい物事に、すぐ慣れることができない

様々なことを、実際に体験している
自由な発想ができる

2) 積極性

前向きに、物事を考えられる

自分の力で、問題を解決しようとする
未来への夢と希望はあまり持っていない

いろいろなことに興味がある

自分から進んで、なんでもやる

3) 明朗性

誰にでも話しかけることができる

小さなことで、クヨクヨする

いつも笑顔で過ごしている

失敗しても、立ち直るのが早い

やりたいことが、たくさんある

4) 交友・協調

グループをうまく、まとめることができる

大人や年上の人と、うまく付き合える

多くの人に好かれている

仲間とうまく付き合えない

誰とでも仲良くできる

- 5) 現実肯定
「ありがとう」「ごめんなさい」がうまく言えない
 生きていて良かったと思っている
 誰にでも、挨拶ができる
 今の自分は、幸せだと思う
 自分のことが大好きである
- 6) 視野・判断
 自分で問題点や課題を見つけることができる
 わからないことは自分で調べる
 先を見通して、自分で計画が立てられる
 様々な情報から、必要なものを選べる
自分の良いところ、悪いところをよく知らない
- 7) 適応行動
 人の話をきちんと聞くことができる
 その場にふさわしい行動ができる
 読み書きが、しっかりできる
 自分でできることは自分でやる
根気がない
- 8) 自己規制
人の悪口をよく言う
 自分勝手な、わがままを言わない
 身の回りの片付けや、掃除ができる
 お金や物の無駄遣いをしない
 腹が立っても、抑えることができる
- 9) 自然への関心
 花や風景などの美しいものに、感動できる
 生き物を、とても大切にする
草花の世話はあまり好きでない
 季節の変化を感じることができる
 自然の中の出来事に興味がある
- 10) 真面目・勤勉
 して良いこと、してはいけないことの判断ができる
 嫌がらずに、よく働く
- 決まりやルールを守ることができる
他人にはあまり親切でない
 自分に割り当てられた仕事は、しっかりやる
- 11) 思いやり
 人のために何かをしてあげるのが好きだ
 相手の立場になって考えることができる
 自分と違う意見や考えを、受け入れることができる
他人の失敗を、許すことができない
 人の心の痛みがわかる
- 12) 日常的行動力
 部屋の中ではなく、外で遊ぶのが好きである
 体を動かしても、疲れにくい
 とても大きな声を出すことができる
 早寝早起きである
食べ物の好き嫌が多い
- 13) 身体的耐性
病気にかかりやすい
 少しくらい血が出ても平気である
 暑さや寒さに、負けない
 長い距離を歩くことができる
 とても痛い怪我をしても、我慢できる
- 14) 野外生活・技能
 自分で食事が作れる
いろいろな動物や虫を、手で触ることができない
 ナイフなどの刃物を、上手に使える
 暗い林の中の道を、一人で歩くことができる
 洗濯機がなくても、手で洗濯できる

4. 分析方法

本調査では、統計処理についてはエクセル統計2010を使い、T検定（対応あり）を実施した。

【結果】

1. 上位尺度

(1) 上位尺度・「生きる力」全体の得点の変容

上位尺度である「生きる力」について2018年度、2019年度、2022年度の全体の実習前後の得点の変容について比較をした結果を図5に示した。

分析の結果、2018年度、2019年度共に実習前後で比較すると1%水準、2022年度については5%水準で統計的に有意に増加していた。

以上のことから、2018年度、2019年度、2022年度の集中ゴルフは、「生きる力」の全体の統計的に有意な向上が認められた。

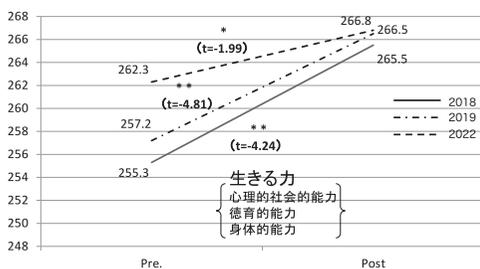


図5 2018、2019、2022年度集中ゴルフにおける「生きる力」の得点の実習前後の比較

(2) 上位尺度・「生きる力」男女別の得点の変容

上位尺度である「生きる力」について2018年度、2019年度、2022年度の男女別の得点の実習前後の変容について比較をした結果を図6に示した。

分析の結果、2018年度について、男性と女性の「生きる力」の得点は実習前後で比較すると、男女共に5%水準で統計的に有意に増加していた。

2019年度について、男性と女性の「生きる力」の得点は実習前後で比較すると、男性が5%水準、女性は1%水準で統計的に有意に増加していた。

2022年度について、男性と女性の「生きる力」の得点は実習前後で比較すると、女性が5%水準で統計的に有意に増加していた。

以上のことから、2018年度、2019年度は男女共に、2022年度は女性が「生きる力」の統計的に有意な向上が認められた。

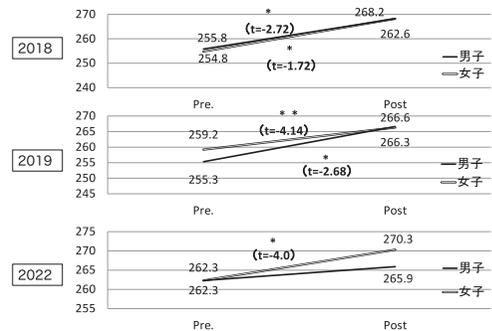


図6 2018、2019、2022年度集中ゴルフにおける「生きる力」の得点の実習前後の比較(男女)

2. 中位尺度

(1) 中位尺度・全体の得点の変容

「生きる力」の中位尺度である「心理的社会的能力(下位尺度1~7)」、「徳育的能力(下位尺度8~11)」、「身体的能力(下位尺度12~14)」の3つの能力の得点について2018年度、2019年度、2022年度の実習前後の変容を比較した結果を図7に示した。

分析の結果、2018年度について「心理的社会的能力」の得点は、実習前後で比較すると1%水準で統計的に有意に増加していた。「徳育的能力」の得点は、実習前後で比較すると1%水準で統計的に有意に減少していた。「身体的能力」の得点は、実習前後で比較すると1%水準で統計的に有意に増加していた。

2019年度について「心理的社会的能力」の得点、「徳育的能力」の得点は、実習前後で比較すると1%水準で統計的に有意に増加していた。

2022年度について「心理的社会的能力」の得点は、実習前後で比較すると5%水準で統計的に有意に増加していた。

以上のことから、2018年度は全体の「心理的社会的能力」、2019年度は全体の「心理的社会的能力」、全体の「徳育的能力」、2022年度は全体の「心理的社会的能力」の統計的に有意な向上が認められた。また、2018年度は、全体の「徳育的能力」は統計的に有意な低下が認められた。

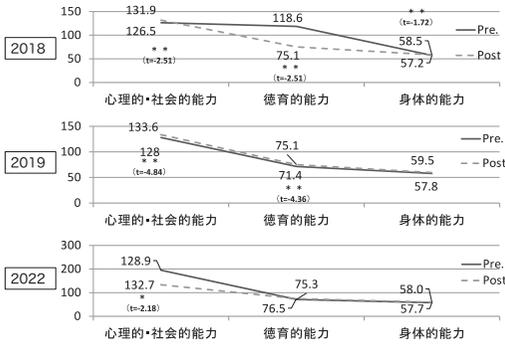


図7 2018、2019、2022年度集中ゴルフにおける「生きる力」を構成する各能力の実習前後の比較

(2) 中位尺度・心理的社会的能力・男女別

中位尺度である「心理的社会的能力（下位尺度1～7）」男女別の得点について、2018年度、2019年度、2022年度の実習前後の変容を比較した結果を図8に示した。

分析の結果、2018年度について、男性と女性の「心理的社会的能力」の得点は実習前後で比較すると、共に5%水準で統計的に有意に増加していた。

2019年度について、男性と女性の「心理的社会的能力」の得点は実習前後で比較すると、男女共に1%水準で統計的に有意に増加していた。

以上のことから、2018年度、2019年度は男女共に「心理的社会的能力」の統計的に有意な向上が認められた。

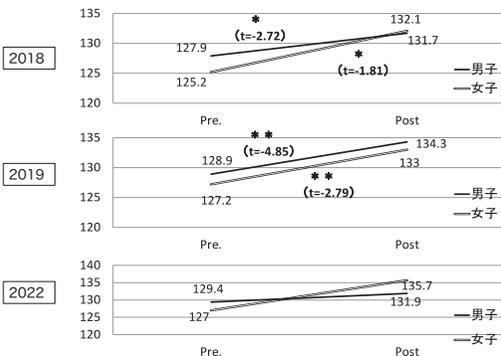


図8 2018、2019、2022年度集中ゴルフにおける心理的社会的能力得点の実習前後の比較（男女）

(3) 中位尺度「徳育的能力」男女別

中位尺度である「徳育的能力（下位尺度8～11）」

男女別の得点について、2018年度、2019年度、2022年度の実習前後の変容を比較した結果を図9に示した。

分析の結果、2018年度について、男性と女性の「徳育的能力」の得点は実習前後で比較すると、共に1%水準で統計的に有意に減少していた。

2019年度について、男性と女性の「徳育的能力」の得点は実習前後で比較すると、男子は1%水準、女性は5%水準で統計的に有意に増加していた。

以上のことから、2018年度は男女共に「徳育的能力」は統計的に有意な低下が認められた。2019年度は男女共に「徳育的能力」は統計的に有意な向上が認められた。

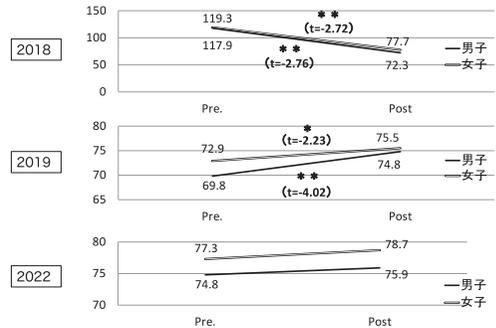


図9 2018、2019、2022年度集中ゴルフにおける徳育的能力得点の実習前後の比較（男女）

(4) 中位尺度「身体的能力」男女別

中位尺度である「身体的能力（下位尺度12～14）」男女別について、2018年度、2019年度、2022年度の実習前後の変容を比較した結果を図10に示した。

分析の結果、2018年度、2019年度、2022年度について、男女別の「身体的能力」は統計的に有意な増加、減少は見られなかった。

以上のことから、2018年度、2019年度、2022年度について、男女別の「身体的能力」は統計的に有意な向上、低下は認められなかった。

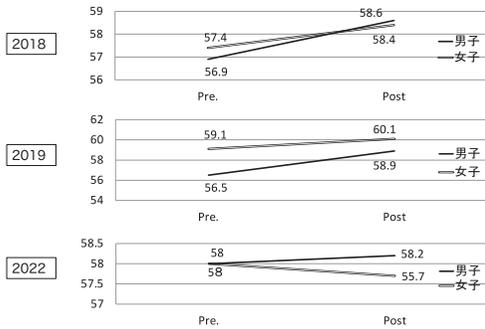


図 10 2018、2019、2022 年度集中ゴルフにおける身体的能力得点の実習前後の比較 (男女)

3. 下位尺度

(1) 下位尺度・全体

下位尺度各指標全体の得点について 2018 年度、2019 年度、2022 年度の実習前後の変容を比較した結果を図 11 に示した。

分析の結果、2018 年度について下位尺度の各指標全体の实習前後の得点は、積極性 (1%水準)、明朗性 (5%水準)、視野・判断 (1%水準)、自然への関心 (5%水準)、真面目・勤勉 (5%水準)、身体的耐性 (5%水準)、野外生活・技能 (5%水準) の 7 つの項目の得点が統計的に有意に増加していた。

2019 年度は、積極性 (5%水準)、明朗性 (5%水準)、視野・判断 (1%水準)、適応行動 (1%水準)、自己規制 (5%水準)、自然への関心 (1%水準)、真面目・勤勉 (1%水準)、日常的行動力 (1%水準) の 8 つの各項目の得点が統計的に有意に増加していた。

以上のことから、下位尺度各指標全体について 2018 年度は、積極性、明朗性、視野・判断、自然への関心、真面目・勤勉、身体的耐性、野外生活・技能の 7 つの項目が統計的に有意な向上が認められた。2019 年度は積極性、明朗性、視野・判断、適応行動、自己規制、自然への関心、真面目・勤勉、日常的行動力の 8 つの各項目が統計的に有意な向上が認められた。

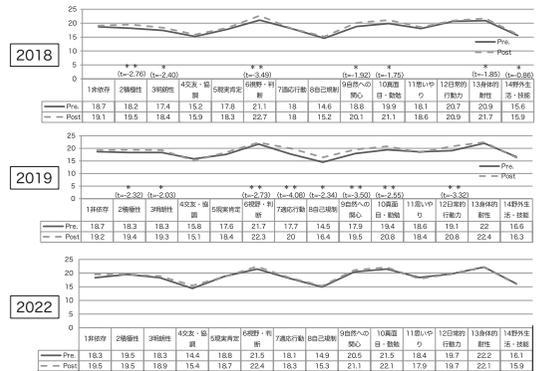


図 11 2018、2019、2022 年度集中ゴルフにおける「生きる力」各指標の実習前後の比較

(2) 下位尺度・男女別男性

下位尺度の各指標男性の得点の 2018 年度、2109 年度、2022 年度の実習前後の変容について比較した結果を図 12 に示した。

分析の結果、下位尺度・男女別男性の 2018 年度については、積極性 (1%水準) の得点が有意に増加していた。

2019 年度については、適応行動 (5%水準)、自然への関心 (5%水準)、真面目・勤勉 (5%水準)、日常的行動力 (1%水準) の得点が有意に増加していた。

以上のことから、下位尺度各指標の男女別男性は 2018 年度について積極性、2019 年度については適応行動、自然への関心、真面目・勤勉、日常的行動力の統計的に有意な向上が認められた。

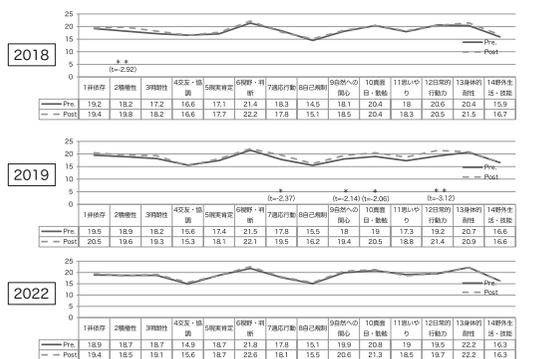


図 12 2018、2019、2022 年度集中ゴルフにおける「生きる力」各指標の実習前後の比較 (男性)

(3) 下位尺度・男女別女性

下位尺度の各指標女性の得点の2018年度、2109年度、2022年度の実習前後の変容について比較した結果を図13に示した。

分析の結果、2018年度については、明朗性（5%水準）、交友・協調（5%水準）、視野・判断（1%水準）、自然への関心（5%水準）、真面目・勤勉（5%水準）の5つの項目の得点が有意に増加していた。

2019年度については、積極性（5%水準）、視野・判断（5%水準）、適応行動（1%水準）、自己規制（1%水準）、自然への関心（5%水準）、思いやり（5%水準）野外生活・技能（1%水準）の7つの項目の得点が統計的に有意に増加していた。

2022年度については、非依存（1%水準）、交友・協調（1%水準）の2つの項目の得点が統計的に有意に増加していた。

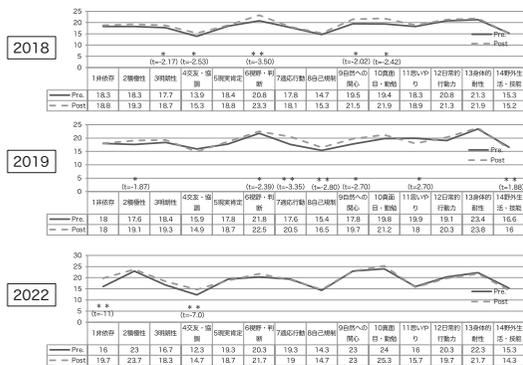


図13 2018、2019、2022年度集中ゴルフにおける「生きる力」各指標の実習前後の比較（女性）

【まとめ】

本学では、夏季休暇中に集中ゴルフを開講しており、2018年度、2019年度、2022年度の受講生を対象にIKR調査を実施し、授業を通しての体験が受講生達に与える影響を調査し、以下のようなことがわかった。

1. 上位尺度について

(1) 上位尺度「生きる力」全体について

2018年度、2019年度、2022年度の集中ゴルフは、「生

きる力」の全体の統計的に有意な向上が認められた。

(2) 上位尺度「生きる力」男女別について

2018年度、2019年度は男女共に、2022年度は女性が「生きる力」の統計的に有意な向上が認められた。

2. 中位尺度について

(1) 中位尺度全体について

2018年度、2019年度の集中ゴルフは、「心理的社会的能力」、「徳育的能力」の全体の統計的に有意な向上が認められた。また、2018年度は、「身体的能力」の全体の統計的に有意な向上が認められた。

(2) 中位尺度男女別について

1) 「心理的社会的能力」男女別について

2018年度は男女共に統計的に有意な減少が認められた。また、2019年度は男女共に、「心理的社会的能力」の統計的に有意な向上が認められた。

2) 「徳育的能力」男女別について

2018年度は、「徳育的能力」について男性は有意な向上が認められたが、女性は統計的に有意に減少していた。また、2019年度は、男性の「徳育的能力」の統計的に有意な向上が認められた。

3) 「身体的能力」男女別について

2018年度、2109年度ともに「身体的能力」男女別の得点は、有意差はなかった。

3. 下位尺度について

(1) 下位尺度全体について

2018年度について、積極性、明朗性、視野・判断、自然への関心、真面目・勤勉、身体的耐性、野外生活・技能の7つの項目の得点が統計的に有意に向上していた。

2019年度については、明朗性、視野・判断、自己規制、真面目・勤勉の各項目について下位尺度の統計的に有意な向上が認められた。

(2) 下位尺度男女別について

1) 下位尺度男女別男性について

2018年度は、男性の非依存、明朗性、交友・協調、視野・判断、適応行動、自然への関心、真面目・勤勉、

日常的行動力の各項目について下位尺度の統計的に有意な向上が認められた。また、2019年度は男性の明朗性、視野・判断の各項目について下位尺度の統計的に有意な向上が認められた。

2) 下位尺度男女別女性について

2018年度は、女性の非依存、積極性、視野・判断、自然への関心、真面目・勤勉の各項目について下位尺度の統計的に有意な向上が認められた。また、2019年度は女性の明朗性、視野・判断、自己規制、自然への関心、真面目・勤勉、思いやりの各項目について下位尺度の統計的に有意な向上が認められた。

2022年度甲南大学スポーツ健康教育研究会において2020年～2022年度の甲南大学生の生活習慣・身体活動量及び心理的ストレスの変化について、報告された。その報告では、コロナ禍における学生達の身体活動量は激減し、心理的ストレスに影響を及ぼしているということが報告された。コロナ禍以前の2018年度、2019年度のIKR調査では、「生きる力」が実習の前後で多くの項目において統計的に有意に向上していたことを考えると2022年度の調査結果は、やはりコロナ禍の生活習慣・身体活動量及び心理的ストレスなどの影響を受けているのかもしれない。今後も集中講義におけるIKR調査を続けていきたい。

【参考文献】

- 桂豊ら (2012) 集中授業の「生きる力」の変化について - 2011 集中スキー IKR 調査より - 甲南大学スポーツ・健康科学教育研究センター論集 (19) pp.25-34
- 桂豊ら (2014) 集中授業の「生きる力」の変化について II- 2013-14 集中スキー IKR 調査より - 甲南大学スポーツ・健康科学教育研究センター論集 (20) pp.19-29
- 桂豊ら (2016) 集中授業の「生きる力」の変化について III- 2014-15, 2015-16 集中スキー IKR 調査報告 - 甲南大学スポーツ・健康科学教育研究センター論集 (21) pp.45-55
- 桂豊ら (2018) 集中授業の「生きる力」の変化につい

てIV - 2016-17, 2017-18 集中スキー IKR 調査報告 - 甲南大学スポーツ・健康科学教育研究センター論集 (22) pp.21-31

桂豊ら (2020) 集中授業の「生きる力」の変化についてV - 2018-19, 2019-20 集中スキー IKR 調査報告 - 甲南大学スポーツ・健康科学教育研究センター論集 (23) pp.17-27

曾我部晋哉ら (2022) 2020年～2022年度の生活習慣・身体活動量及び心理的ストレスの変化について 甲南大学スポーツ・健康科学教育研究センター主催 2022年度スポーツ教育研究会発表より